

『召しにふさわしく⑥』

'22/08/21

聖書箇所：エペソ人への手紙 4 章 3-6 節（新約 p.377）

イエス様は、ある時に、こんなことをおっしゃられました。『24 もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。25 また、家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。』（マルコ 3:24-25）⇒改めて言うまでも無く、イエス様を信じ救われた者たちの集まりである、教会にとって、「一致」とはあってなくても良いもの…、ではありません！もし、教会の内に一致が無いなら、それは由々しき問題であり、教会の一大事であると言った方が良いでしょう。だから、1 コリント書でも、ピリピ書でも、教会内の分裂の問題について、聖書は大きく触れているわけです。

命題：神は、クリスチャンがどのように生きることを願っておられるのでしょうか？

ここ何回か、私たちは、エペソ 4:1-3 を通して、パウロがエペソを始めとする小アジアの教会に願った、クリスチャンが備えておくべき性質・資質について…、言い換えれば、クリスチャンの歩みについて学んできました。今日は、その最後6つ目の資質を皆さんと一緒に見ていきたいと思います。それは、「一致」です。一致こそ、私たちクリスチャンに、神様が与えてくださった大きな恵みであり…、と同時に証しなのです。…どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるエペソ 4:1-6 をお開きください。

- 1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。
- 2 謙遜と柔和の限りを尽し、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、
- 3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。
- 4 からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。
- 5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。
- 6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。

I・謙遜！（2節）

最初に学んだ資質、「謙遜」について、もう皆さんは何度も聞いてくださっています。⇒今から2000年前の、この当時は、「謙遜」などという言葉も無かったような…、そんな時代でした。謙遜とは、まるで正反対の…、自分の持っている考えや自分の存在が、如何に優れているかということをアピールすることの方が、この当時の人間たちには重要であったのです。でも、そんな時代に、イエス様は、謙遜…、つまり、自分を低くし…、人に仕えるということを教え、自ら、実践してくださったのです…。

II・柔和！（2節）

その次に、このみことばが教えてくれている資質は「柔和」でした。…「簡単に怒ったりしないこと」です。真の神様によって、本当の自分自身を知らされ…、聖書の教える謙遜というものを身に付けた人間は、自然と、柔和にもなります。…こと、自分に関しては、悪く言われても…、侮辱されても、例え、不利益をこうむったとしても…、容易に取り乱したり、感情的になつたりしなくなっていくものなのです。

III・寛容！（2節）

3つ目に学んだ態度と言うか、資質は「寛容」でした。…簡単に言うならば、「心が広くて、他人の言動をよく受け入れること」です。また、それだけではなく、自分がどのように対応するかによって、その人が神様の祝福を得ることができるのか…、そういったことを考えて、行動することです。

IV・神の愛ゆえの忍耐！（2節）

4つ目は「忍耐」です。しかも、神様の愛というものを伴った「忍耐」でした。先週学んだように、これには実践が伴います。だから、この言葉には、「相手の言い分に耳を傾ける、相手を赦す」というような…、実際の行動までを表わすような意味が含まれているのです。そのために、謙遜と柔和、寛容が必要なのです。

このような態度、また性質は、私たちのように…、罪深く、愚かな存在には絶対必要なものです。だって、私たちクリスチャンには、お互いに赦しが必要だからです。ここで使われていた愛という言葉が、何の条件も付けないような、「アガペーの愛」という言葉が使われていることから分かる通り、すべての人は罪があるが故に…、すべての人に対して、私たちは赦しというものを実践していかないといけないのです！

V・平和！（3節）

5つ目の資質・態度は、「平和」です。…私たちクリスチャンの故に、平和が与えられ、それでもって神様の栄光が現わされていくのです。先週学んだように…、救われる前の私たちが持っていたものは、平和ではなく、むしろ、分裂でした。…私たちの罪が全く解決されていなかったために、私たちは、私たちの造り主であられる神様と敵対関係にあったし、人間同士の間でも、解決できないような…、様々な問題や争い、わだかまりがあったのです。現在も、そういった人間同士の争いや憎しみが存在します。残念なことは、そういった問題は、幾ら平和会議を積み重ねても…、和平交渉を行なっても…、完全に解消できるものではありません。そういった問題をすべて解決できるのは、真の神様だけであり、神の愛だけなのです！

ね、皆さん、思いませんか？…ある人は、たくさん問題の中にあっても、いつも喜んでいて、笑顔をやささない人が居ます。その一方で、大した問題も無いように見えるのに、いつも不平不満だらけの人も居ます。…そういったことで何が分かるのか？要は、環境が1番の問題じゃないということです。1番大切なのは、私たちの選択であり…、何を信じているか、ということに懸かっているのではないのでしょうか？

VI・一致！（3-6節）

そこのまで、ここ何週かで学んできたことです。最後、6つ目の資質・態度は、「一致」です。…3節後半から6節まで、ずっと一致に関する話が話されています。…そのことだけでも、ここでは、一致が1番強調されている、ということが明らかでしょう。

●『一致』の重要性！

皆さん、まず、ここでヨハネ 17 章をご覧ください。ここは、十字架を目前にされたイエス様が、特に、残されていく弟子たちのために祈ってくださった内容について記されていますが、その…、ヨハネ 17:20-23 をご覧ください。『20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおられるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。23 わたしは

彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたこと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたことを、この世が知るためです。』

イエス様は、どのようなことを祈ってくださったでしょう？⇒救われたクリスチャンたちが一致していくことでしたよね！…そのことによって、私たちの信じている神様の証しができたり、できなかつたりするのです。だから、私たちの中に一致があることで、この世の人たちが真の神様を信じて、救われることができる！ということイエス様は祈られたのです。

皆さんは、ご自分のご家族が、イエス様を信じて救われてほしいですか？…だったら、私たちクリスチャンは、イエス様が祈られたように、一致すべきです。…でしょ？…もしも私たちが、イエス様が祈られた一致と逆行するようなことを言ったり、したりするのであれば…、例えば、同じ教会の人の悪口や牧師に対する不平不満、また、教会への愚痴を誰かに話してしまうなら…、それはイエス様の祈りを否定する行為であるだけでなく…、「この人には教会に来てもらいたくない！救われてほしくない！…クリスチャンとして成長してほしくない！」と言っているのも同然ではないでしょうか？

果たして、皆さんのご家族や友人の方々は、皆さんを通して…、教会の中に、神様がなして下さったはずの、一致というものをご覧になっておられるでしょうか？あるいは、この教会に来て下さった方々は…、この様子をご覧になって、神様を信じるが故の…、主にある一致というものを感じ取って下さるでしょうか？…もし、私たちが、これまでに学んできた謙遜や柔和、寛容、忍耐や平和…、そして、一致というものを熱心に保っていないのであれば、どこにその問題があるのかということを考えないといけません。以前、皆さんにお話ししたように…、神様は、皆さんの話す福音の言葉だけを用いて下さるではありません。皆さんの生き方…、エペソ 4:1 で言われているところの…、「召しにふさわしい歩み」というものを用いられるのです！

●一致のための励まし

4 節以降で、パウロは私たちに、『一致』のための励ましとも言わなければならない、私たちクリスチャンに与えられた共通の恵みというものを挙げてくれています。そのことを見ていきましょう。

①同じ からだ に属している！

まず第1に、私たちクリスチャンは皆、同じ体に属しているということです。I コリント 12:27 には、『あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。』と教えられてあります。イエス様を信じて救われた私も皆さんも、この世界にたった一つしかない、『キリストのからだ』に属しているのです！救われたあなたは、そのキリストのからだのどこから、一部分なのです。そこには、国籍も、職業も、地位も名誉も関係ありません。ある人は、キリストの体の目の働きをしておられるかも知れません。ある人は手…、ある人は足かも知れません。しかし、その働きや動きは大きく違っていたとしても…、同じ体に属している以上、私たちは同じグループ、同じ運命共同体なのです。

だから、今お読みした直前のみことばは、こう教えます。I コリント 12:21-26、『21 そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うこともできません。 22 それどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。 23 また、私たちは、からだの中で比較的尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになりますが、 24 かっこうの良い器官にはその必要がありません。しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させて下さったのです。 25 それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うため

す。26 もし一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。』とある通りです。皆さん、例えば、手が足のことを嫌って、傷つけたらどうなります？足だけでなく、手も…、また、その他の部分も何らかの被害をこうみますでしょ？…同じ体の一部分だからです。だから、私たちは、お互いを労わり合い…、唯一の頭であるキリストに従っていかないといけません。

②同じ 聖霊 によって救われ、導かれている！

次に、パウロが挙げるのは、『御霊は一つ』だということです。…皆さん、ご存知でしたか？私たちは皆、同じ聖霊なる神様によって救われ、また、導かれているのです。当然のことですが、その聖霊なる神様も、父なる神様やイエス様と同様…、唯一無二の存在です。何となく…、イメージとしてですが、聖霊なる神様は、イエス様を信じた私たちの内に住んで下さっているのだということを知ると…、聖霊なる神様は無限にいらっしゃるようなイメージを持ってしまいかねません…。しかし、みことばはこう教えるのです、「聖霊なる神は一人です」って…。

その…、唯一の聖霊なる神様が、あなたに真理を悟らせて下さり…、今、あなたの内に居て、導きと励ましを与え…、力を与えて下さっているのです。II コリント 3:18 に、『私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちを姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。』とあります。聖霊なる神様が、救われた私たちを、同じキリストに似た者へと変えていって下さるのです。だったら、どうして、そこに一致でなくて…、憎しみや争いが起こってしまうのでしょうか？それに関しては、今日のメッセージの最後にお話ししたいと思います…。

③同じ 希望 を持っている！

3 番目は、同じ希望を持っているということです。今日のみことばの 4 節で、『望み』(ἐλπίς)と訳されているギリシア語の言葉は、「望み、期待…」なども訳され得る言葉で、どちらかと言うと、将来起こるはずのことを待望するような…、そういう類の言葉です。例えば、ローマ 8:23-24 のみことばがそうです。ここでは、リビングバイブルの訳を紹介させていただきます。「23 そればかりか、クリスチャンでさえ、聖霊様を自分のうちにいただいて、将来の栄光を先取りしているにもかかわらず、苦しみと悩みから解放されたいと望んでいます。 また、神様の子供としての完全な権利が与えられるその日を、ひたすら待ちこがれています。 その日には、神様が約束して下さった新しい体、すなわち、もはや病気になることも死ぬこともない体をいただくのです。 24 私たちは、このように信じて待ち望むことで救われています。信じて待ち望むとは、今は持っていないけれども、やがて与えられると確信して待つことです。すでに持っている人は、神様が与えて下さると期待したり、信じて待ち望んだりする必要はありません。」

⇒ここで教えられているように、私たちの救いは、私たちがイエス様を信じて、救われた時に終わったものではありません。その信じた瞬間から始まったのです！神様は今も、私たちと共に居て下さり…、導いて下さっています。私たちは今も、神様がなして下さっている、救いの御業の真っ只中に居るのです！

今、皆さんはどんな希望を持っておられますか？⇒1 番は、天に行くことじゃありません？この罪の体から…、罪の世界から完全に解放されることじゃありません？そうして、私たちは、私たちがために救いを完成して下さったイエス様にお会いできるのです。また、先に召された方々にも会えます！…イエス様を信じて救われた私たちは全員、この…、同じ希望を持っているのです！

④同じ 主 に仕えている！

4 つ目は、皆、同じ主に仕えているということです。ローマ 16:17-18 に、こうあります。『17 兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまづきを引き起こす人々を警戒

してください。彼らから遠ざかりなさい。18 そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。…』⇒私たち救われたクリスチャンは皆、イエス様を愛し、そのイエス様に仕えているはずです。前にも皆さんと見たように、マタイ 11:29 には、『わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。…』とありましたでしょ。救われたクリスチャンの皆さんは、イエス様のくびきを自ら喜んで負っておられるはず。だって、それこそが、神様によって救われた者たちの生き方だからです。

だから、イエス様も、ルカ 6:46 で、『なぜ、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。』とおっしゃっておられるのです。私たちは皆、同じ御方…、同じ主イエス・キリストという御方に仕えているグループなのです。そして…、このイエス様に私たちが従っていく時に、一致が必ず保たれるはず。…ね。

⑤ 同じ 信仰 を持っている！

5つ目、皆、同じ信仰を持っているということです。救いについて教えてられてある、非常に重要なみことばの、ローマ 10:17 には、こうあります。『そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリスト についてのみことばによるのです。』って…。私たち一般的な日本人は、こう思っている人が多いようです。「鵜の頭も信心から」、…つまりは、信じる対象よりも、信じるという信仰心こそが大事なのだということでしょう。

しかし、私たちクリスチャンは違います。皆、同じ神様を信じ、同じ救いを信じ、同じ救い主であられるイエス・キリストを信じています。みことばが、『この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。』(使徒 4:12)と教える通りです。何故なら、このイエス様以外に、私たちの罪を清算し…、罪の罰を代わりに受けてくださった御方はいないからです！

⑥ 同じ バプテスマ を受けた！

6つ目、私たちは皆、同じバプテスマを受けているということです。恐らく、ここで言われているバプテスマとは、私たちが儀式として行なう、あの「水のバプテスマ」のことではありません。…と言うのは、この後、キリスト教が混迷していく中で、いろんな考えの信仰やそれに基づいたバプテスマなどが出てくるようになっていくからです。例えば、幼児洗礼などが、その良い例でしょう。バプテスマに限らず…、私たちは、聖書の教えに基づいていない教会とは一線を画すべきです。特に、違った種類の福音…、違ったものからの救いを教えるようなグループとは距離を置くべきことをみことばは教えています(1 コリント 11 章、ガラテヤ書、コロサイ 2 章、1 ヨハネ 4 章など)。

ここで言われているのは、もう1つの方の…、「聖霊のバプテスマ」、すなわち、私たちがイエス様を信じた瞬間、キリストと継ぎ合わせられて、キリストと一体としてくださる聖霊なる神様の御業のことです…。ローマ 6:3-4 にはこうあります。『3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。』⇒このように、私たちは、聖霊のバプテスマによって、イエス・キリストと一体とされたのです！

⑦ 同じ 父なる神様 を信じている！

最後7つ目、私たちは皆、同じ父なる神様という存在を信じているということです。どうぞ、6 節をご覧ください。『すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。』とあります。ここ6節では、父なる神様のことが話されています。この直前では、イエス

様のことでした。そして、その前の4節は聖霊なる神様のことで。これらの神様は、3人ではありません。「三位一体の神様」です。それぞれの違いはあっても、本質的には全く同質の、唯一の神様なのです。1 コリント 8:4-6 にこうあります。『4 そういって、偶像にささげた肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。5 なるほど、多くの神や、多くの主があるので、神々と呼ばれるものならば、天にも地にもありますが、6 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。』

このように、私たちの信じている父なる神様は、『すべてのものの上にあり…』、つまり、最高の存在、主権者であられるということです。『すべてのものを貫き…』とは、この真の神様が全能者であられるということです。『すべてのものうちにおられる…』とは、この神様は、私たちの内にいてくださっているし…、また、どこにでもおられる遍在なる神であるということです。

そのような神様が、全精力を注いで、三位一体なる神様を総動員して、私たちの救いのために、はるか以前から世界を動かし、私たちが今、救いへと…、そして、この教会へと導いてくださったのです！ 私たちは、その神様のみこころであり…、模範にならって一致を保っていくべき必要があるのです！

● 一致を乱すものとは？

前回にも言いましたが、この3節をご覧ください。『平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。』と教えられています。命令形です！本来、神様の恵みによって救われた私たちに、平和も一致も与えられているはず。…しかし、先週見たように、私たちの一致を乱すものがあります。

だから、みことばはこう教えるのです、『熱心に保ちなさい！』って…。実は、ここ3節のみことばでは、この『熱心に保ちなさい！』という教えだけが命令形で書かれています。いえ…、実は、ギリシヤ語を見ると、『熱心に！』という言葉だけが命令形で…、それを補う形で、『保つ』という言葉が不定詞で表現されています。…つまり、ここ3節の1番の強調点は、ある意味、『熱心であれ！』ということなのです。

つまり、私たちが一旦与えられたはずではあっても…、その平和や一致を保ち続けることは、決して容易なことではないのです。一致というものは、ただ何となく維持できるような…、あるいは、簡単に達成できるようなものでもないからです！そこには、私たちの熱心さ…、言い換えれば、努力が必要なのです！

一体、何故、私たちは、一旦与えられたはずの平和や一致を保ち続けることが難しいのでしょうか？⇒ ちよつと、皆さん。1 コリント 3:1-4 をご覧ください。『1 さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。3 あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあるからすれば、あなたがたは肉に属しているのではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるのではありませんか。4 ある人が、「私はパウロにつく」と言えば、別の人は、「私はアポロに」と言う。そういうことでは、あなたがたは、ただの人たちではありませんか。』

⇒当時、コリントの教会には、分裂分派が生じていました。ある人が、「私はパウロにつく！」と言えば、別の人は、「私はアポロにつく！」といった具合でした…。今、お読みした聖書箇所には、『キリストにある幼子』という表現もありましたが、あまりにも信仰が幼いのです。…その原因は、彼らが、『まだ肉に属しているから…』だと、みことばは教えます。それだけではありません。3節には、パウロの非難として、『…ただの

人のように歩んでいるわけではありませんか。』とあります。これは、クリスチャンであると言いながら、まるで、ノンクリスチャンと同じような歩みをしているということの非難です！

つまりね、皆さん。その問題点は、彼ら自身にあったのです。パウロとアポロといった者たちが分裂分派を作っていたのでしょうか？彼らが、お互いに反目しあっていたのでしょうか？…いいえ、コリント教会のメンバーたちが勝手に、パウロやアポロの名前を担ぎ出して、彼らを利用してに過ぎないのです！

私たち救われた者たちの責任…、それは、クリスチャン一人ひとりが救われた者にふさわしく、忠実に歩むその生き方によって、互いに一致を保つことなのです。そして、教会を形成している一人ひとり…、全員に、そういったことの責任が与えられているのです！そのため、私たちは一人ひとり、主の前に成熟していかないとはいけなし、そのために、聖書のみことばを学び、そして、主とたくさんの方たちの前で、もっともつと、へりくだっていかないとはいけなしのです。

もし、私たちが一致を乱してしまっているなら、どうぞ、冷静になって、自分自身の歩みを吟味してみてください。…果たして、私には、①謙遜があるでしょうか？②柔和を忘れてはいないでしょうか？③寛容であろうと務めているでしょうか？④神の愛をもって、忍耐しようとしているでしょうか？⑤自分自身が率先して、平和を作ろうとしているでしょうか？⑥一致の重要性を理解し、一致という目的のために、様々なことをしているでしょうか？

<励ましの言葉>

どうぞ、皆さん、少し長いのですが、最後に、ガラテヤ 5:15-26 をご覧ください。『15 もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの間で滅ぼされてしまいます。気をつけなさい。16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。18 しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。19 肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のもです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。25 もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。26 互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走ることをないようにしましょう。』

⇒最後の部分に何とありました？『…互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走ることをないようにしましょう。』とありましたでしょ。『虚栄』って何でしょう？…偽りの栄光です！本当は、立派でもないのに、さも立派であると思わせようとするのです。ほとんど、すべての場合、一致が乱れてしまうのは、私たちが持っているプライドのせいです。「自分の非を認めたくない、自分がへりくだりたくない…」というのが、私たち罪人の性(さが)です。しかし、聖書のみことばが教えることは、「あなたには選択があったでしょ！また、あなたは、イエス様がどうされたか、という模範も知っていたでしょ？」ということです。御霊に従って、正しいことをしていくか…、あるいは、肉に従って、神様に逆らい続け、「私は弱いクリスチャンなんです…」というような言い訳をしながらか、歩いていくかのどちらかです。

しかし、みことばはこう教えます。21 節、『…こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。』って…。本当に、神様によって救われ…、神様を愛しているクリスチャンは、キリストを模範として、

ますますへりくだって、一致を生み出そうとします。そして、御霊に従って歩いていこうとします。「神様、どうか、こんな罪人の私を助けてください。私は、神様の喜んでくださるような者になっていきたいのです。どうか、こんな私が、ますます、主に喜ばれる歩みができるよう助け導いてください。」…そう祈りつつ、みことばを1つ1つ実践していくのです。

時々、残念なのは、初めから、そういった信仰の戦いをしないで、勝負を投げてしまうことです。今日、学んだように、一致とは容易く与え続けられるものではありません。また、罪との戦いにおいてもそうです。例えば、皆さん…。実力が同じような相手と戦う時に、「多分、負けるだろうな…」とっていて勝てるでしょうか？まして、相手は、私たちの力だけでは決して勝利できない罪なのです。私たちは、神様の助けによって、戦っていかないとはいけなしのです。…だって、簡単に達成できるような…、勝利できるようなものなら、神様の助けは必要ありませんし、神様の栄光も現われないじゃないですか！難しいからこそ、私たちは神様に頼るし…、そこに神様の栄光が現わされるのです！

どうか、この1週間も、神様の助けを頂いて…、一致を作り出すような…、神様の栄光を現わすようなクリスチャンとして歩んでください。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。